

「福島大学学生教育支援基金」

平成 29 年度 成果報告

福島大学学生教育支援基金は、地域の再生復興を見据えながら、グローバル化が進展する社会で活躍できる「強い人材」の育成を目指し、学生が存分に勉学に励み、国際性を育み、社会的実践力を身につけることができるような教育環境を整備することを目的とし、学生支援や国際交流、学生教育環境整備事業等を支援します。平成29年度は、同基金による支援事業として、留学補助等の4事業を採択しました。本紙では、事業の内容をご案内するとともに、その成果をご報告いたします。ご寄附いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

学生教育支援基金支援事業「福島大学と海外協定校による双方向交流事業」

国際交流センターでは、本基金を基に、『学生のグローバル意識啓発及びグローバル人材育成を目的とした海外協定校への学生派遣プログラム』『海外協定校からの留学生受入プログラムの企画・実施』を行ってきました。

派遣事業では、15人の学生を海外協定校（アメリカ・ドイツ・ルーマニア・ハンガリー・中国・韓国・オーストラリア）へ1年間の交換留学に派遣しました。また、短期派遣プログラムでは、韓国・中央大学短期語学（韓国語）研修に8名、中国・華東師範大学短期語学（中国語）研修に12名、オーストラリア・クイーンズランド大学短期語学（英語）研修に19名、フィリピン・アテネオ・デ・マニラ大学短期語学研修に2名を派遣しました。留学先では、語学学習や異文化体験だけでなく、現地の学生や他国の留学生とも交流することができ、

参加した学生は有意義な経験をすることができました。

また、受入事業においては、前期は15名、後期は18名の交換留学生を受け入れました。彼らには、日本人学生や地域住民との交流の機会を設けたほか、福島をより詳しく知ってもらうため、主に県中・いわき地域を巡る研修旅行や福島第一原発視察ツアーなどを実施しました。

さらには、Fukushima Ambassadors Program を8月と2月に実施し海外協定校から延べ35名の学生を招聘しました。彼らは、福島県内各地を視察して、原発、復興状況、産業について学習したほか、2月参加者については、東京・国連大学で開催されたパネルディスカッション「アップデイトふくしま」において、自らが感じた福島について発表しました。



Fukushima Ambassadors program
赤べこ絵付けの様子



中国・華東師範大学短期語学研修
ゼビオ上海支店でのインターンシップ



交換留学（ハンガリー・カーロリ大学）
現地の学生とキャンパスで記念撮影



オーストラリア・クイーンズランド短期
語学研修 講師との記念撮影

多文化体験による国際人育成プログラムの創出 ～食を通して～

私たちのプログラムは、世界各地で「食」についての調査やパフォーマンスを実施し、その活動を通じて学生に多様な価値観に対する理解を深めてもらうことを目的としています。

ドイツ・ロシア・中国・韓国などの国、地域に関わる授業の担当者と受講生がともに対象地域に渡航し、『和食、福島の食材、当該地域の食習慣などに関するアンケートの実施』や『日本の食文化を実演付きで紹介』等の活動を行いました。

韓国では市場や民俗博物館やキムチミュージアム、お茶の博物館を見学しました。

ロシアでは極東交通大学の大学祭で和菓子作りを実演しました。

中国では広百百貨店の食品部門を視察し、広東料理体験を行ないました。

ベトナムでは少数民族カトゥ族の村で稲作や日本酒造りを見学しました。

ドイツでは現地のスーパーを見学した後、日本料理教室、ドイツ料理教室を開催し、各国のテーブルマナーを学びました。

これらの活動の傍ら各地域で上記のアンケート調査を実施し、その結果を福島市内の「アオウゼ」で「ワールドキッチン in Fukudai」を開催し発表しました。イベントでは各国料理の試食や食に関するクイズ、スタンプラリーや、各国語の歌や踊りのアトラクションも盛り込みました。

プログラムを進めていく中で、学生たちは「食」を通して世界の多様性を体感し、同時に福島の復興について議論を深めることができました。皆様のお力添えいただいたおかげでプログラムを完遂できました。厚く感謝いたします。



ソウル市内でアンケート調査



「ワールドキッチン in Fukudai」
ワークショップの試食の様子



「ワールドキッチン in Fukudai」
ロシアチーム発表の様子

「主体的学習を促進する」学生による学生のための学習支援プロジェクト

昨今「教育から学習へ」をスローガンに、大学教育ではアクティブ・ラーニング等の多様な教育実践が展開されています。この動向は、学生の主体的学習を正課内外で促進させる必要性が高まっていることを表していますが、本活動ではこれらの役割の一担い手として「学びのナビゲーター」が活躍しています。学びのナビゲーターは学生にとっての学習拠点である附属図書館を中心として、全学的な学習支援活動を企画・実施する学生による学習アドバイザーです。

「日常を学びに変える！」をスローガンに、活動は主に①授業の疑問点やスタディ・スキルに関する質問に応じる「学習相談対応」、②学生の視点でワークショップなどを実施する「学習イベント企画」、③各授業と連携して出前授業などを行う「授業連携活動」、④本学独自の教育プログラムである自己学習プログラムの開発・促進を行う「自主ゼミ開発」の4つの柱で構成されています。

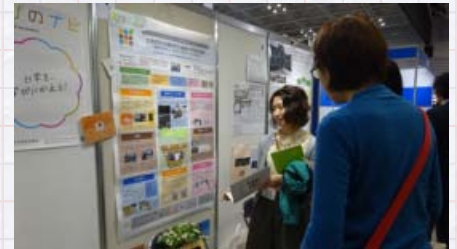
正課内外問わず学習支援の活動に従事する学びのナビゲーターの学生は、その活動を「図書館総合展」において対外的に発信したり、他大学の学生の学習アドバイザーを核とした学習支援組織（東北大学学習支援センター、北海道大学ラーニングサポート室）との合同研修会に参画したりすることで、日常の活動からは得られない様々な気付きを得ています。本活動は、学生自身が「アクティブ・ラーナー（主体的学習者）」として成長する機会です。今後も学びのナビゲーターは本学学生の良きロールモデルとして、学習支援を牽引していく事を期待します。



三大学合同研修会でのプレゼン



学びのナビゲーター



図書館総合展でのポスター発表

学生サポーターの養成と実践

アクセシビリティ支援室は、様々な障がいや疾患のある学生への修学支援のための窓口として平成27年に設置されました。今年度からは、学生教育支援基金支援事業として、障害学生を支援する学生サポーターの養成に取り組み、『ノートテイカーの養成・派遣』と『雪かき協力隊派遣』の活動を行いました。

ノートテイカーとは、聴覚障がい等のある学生に授業の内容（音声情報）を筆記し伝える人のことです。「わかりやすいノートをとってくれる人」ではなく、先生の雑談なども含めて、その場で何が起きているのかを伝える役割を担っています。

8月には手書きノートテイク講習会を実施し、ノートテイクの技術、当事者の体験談等を通じて聴覚障がいへの理解を深めました。10月からは毎月講習会を実施していて、これまでに20名以上の学生が受講しています。また、受講者の中から式典へのテイカー派遣も行い、聴覚障がい学生の「耳代わり」として参加しました。

2月にはパソコンノートテイク講習会を実施しました。専用のソフトを使いこなす難しさがありますが、情報量は手書きよりも格段に増えます。今後はパソコンテイカーの養成にも力を入れていく予定です。

福島大学は地上傾斜や坂道が多く、積雪時には移動に苦労します。特に肢体不自由のある学生にとっては、雪道の移動のしづらさに加え、路面の凍結により危険を伴うことも少なくありません。この冬は例年よりも雪が多く、7回にわたり計13名の雪かき協力隊が出動しました。学内を安全に移動できるよう雪かきや融雪剤散布を行った結果、けがもなく安全に冬を過ごすことができました。

学生サポーターの活動はまだまだ始まったばかりです。障害のある学生、ない学生がともに支え合いながら学ぶ大学を目指し、次年度はさらに活動を広げていきたいと考えています。



パソコンノートテイカー講習会の様子



式典へ手書きノートテイカー派遣の様子
(大学改革アイデアコンテスト授賞式)



式典へ手書きノートテイカー派遣の様子
(大学改革アイデアコンテスト授賞式)